



からだステーション

2022年
1月号
presented by
荻窪接骨院

オミクロン株と

ブースター接種

オミクロン株の市中感染が確認され、今後感染拡大が懸念されています。日本でも間違いなくオミクロン株による感染が広がるでしょう。今のところ「オミクロン株は感染力が非常に強いが、重症化はしない」と言われています。しかしオミクロン株について詳しいことは分かっておらず、重症化しないという保証はありません。今後研究が進んでオミクロン株の詳細が分かって来るでしょうが、現時点で分かっていることをお伝えします。また、ブースター接種の必要性や、今やっておかなければいけないことは何かを考えます。



オミクロンの命名

南アフリカで初めて新種の変異株が確認され、南アフリカ保健局がWHOに報告したのは昨年11月24日です。WHOは26日に新しい変異株を「オミクロン」と名付けました。WHOでは新種の変異株が確認されるとギリシャ語を用いて名付けています。最初はアルファ株から始まり、ベータ、ガンマ、デルタと続きます。その後次々と変異株が確認され11月の時点では12番目のミュー株まで確認されてきました。通常であれば新種の変異株は13番目のニューが使われるはずですが、ところがWHOは13番目のニューと、14番目のクサイを飛ばして、15番目のオミクロンを名付けました。なぜWHOはニューとクサイを飛ばしてオミクロンと名付けたのでしょうか？

中国への付度？

WHOは、「ニューは新しいという意味のnewと混同されやすく、クサイは一般的な性であるため使用しなかった」と説明しています。しかし、この説明についてSNS上で波紋が広がりました。クサイの英語表記が、中国の習近平・国家主席の姓の英語表記「Xi(クサイ)」と同じであるため、「中国への付度なのでは？」という憶測を呼んだのです。そもそも新型コロナウイルスは中国の武漢ウイルス研究所から流出したのではないかと、この「武漢流出説」が叫ばれ、これを受けたWHOは武漢での現地調査を実施しました。しかし十分な調査も行われないうまま、「武漢研究所からウイルスが流出した可能性は極めて低い」と発表したのです。新型コロナウイルスを収束させるために、世界の指揮を取らなければいけないはずの



テドロス事務局長



習近平国家主席

WHOが中国の顔色ばかり見ているのですから、「WHOのテドロス事務局長は、中国からお金をもらってるんじゃないの？」と言いたくもありませんね。

世界の感染状況

さて、世界のオミクロン株の感染状況を見てみましょう。全世界でオミクロン株による感染者数が増加し、南アフリカやイングランド、アメリカ合衆国では、デルタ株からオミクロン株への急速な置き換わりの進行が報告されています。南アフリカではゲノム解析された検体のうち、10月はデルタ株が85%、オミクロン株が0.2%であったのに対し、12月にはオミクロン株が98%となり、急速にオミクロン株に置き換わっていることが分かります。

南アフリカから見える期待

南アフリカでは昨年11月から12月にかけてオミクロン株による感染爆発が起き、一日3万人以上の人が感染し

ました。しかし、重症化する人は少なく、医療体制もひっ迫していません。12月下旬には1万人を下回り、12月30日、南アフリカ政府は「オミクロン株によって生じた新型コロナウイルス感染の第4波のピークは過ぎたとみられる」とし、「夜間外出禁止令など一部の制限を解除する」と発表しました。

南アフリカではワクチンの接種率は3割にも達していませんから、今回オミクロン株に感染したのはワクチン未接種の人が多かったとみられています。これによって集団免疫が獲得でき、南アフリカは新型コロナウイルスの収束に向かうのではないかと期待されているのです。

日本の感染状況

国内のオミクロン株感染者1例目は、成田空港の検疫で陽性となり、11月30日に同株への感染が判明したナミビア人の外交官です。厚生労働省によるとこのケースを含め、空港検疫で見つかった同株感染者は1月3日時点で452人に上ります。空港検疫で感染

が判明した人のほか、空港以外でも全国で298人の感染が分かっており、同株感染者は計750人に上りました。感染経路不明の「市中感染」とみられる事例も各都府県から次々と報告されています。

オミクロン株の感染を防ぐには？

年末年始で人が動き、会食する機会も増えるため、オミクロン株の感染者が増える予想されます。感染力が非常に強いとされるオミクロン株の感染を防ぐにはどうすればいいのでしょうか？オミクロン株など新たな変異株であっても、従来と同様に3密回避、会話時のマスクの着用、手洗い、換気などの基本的な感染対策の徹底が大切です。そして最も有効と考えられるのがブースター接種です。

ブースター接種

ブースターとは「増幅器」のことで、ブースター接種は「本来ある免疫機能をさらに向上させるための追加接種」

といった意味合いがあります。つまり、3回目のワクチン接種のことですね。なぜ3回目のワクチン接種が必要なのでしょう？それは2回目のワクチン接種後、約6か月でその効果は半減してしまうからです。日本では2回目接種後8か月を経過してから3回目を接種するとしています。しかし、昨年6月に2回目接種を終えた高齢者の方は12月で6カ月経ちますから、3回目を前倒しして接種すべきだという議論がされています。

接種券は自治体から送られてくるの？

前回のワクチン接種は18歳以上の全ての国民に自治体から接種券が送られて来ましたが、今回は2回目接種を終えた方だけに接種券が送られます。そのため誰が2回目接種を終えているかを自治体が把握する必要があります。自治体の接種券を使用して接種した方は、間違いなく自治体が接種を把握しています。しかし、自治体の接種券を使用せず、職域接種などを受けた

方は、自分が2回目接種を終えたことを自治体が把握しているかどうか、確認する必要があります。そうしないと自治体から接種券が送られて来ないからです。

接種証明書発行アプリ

デジタル庁が正式に提供しているアプリがあります。これを利用して接種証明書が発行されれば、自治体が2回目接種を終えていることを把握していることとなります。スマホで「デジタル庁 接種証明書」と検索してみてください。オミクロン株を乗り切れば今年でコロナが収束するかもしれませんが、マスク、手洗い、3密回避、そしてブースター接種でコロナに勝ちましょう！

ひとくち医学用語

市中感染

病院内で引き起こされる感染症と対比する言葉で、病院内で発症した感染症を指す用語。社会生活をしている健康人に起こる感染症で、外因性感染症である。

参考文献 厚生労働省HP/デジタル庁HP/読売新聞デジタル/BBCニュース/朝日新聞デジタル